

びわ湖バレイを楽しむ

朝9時45分、JR湖西線志賀(しが)駅のホームから見た比良(ひら)の山並みです。

雨ではないものの、目的地「びわ湖バレイ」のあたりは雲の中、「琵琶湖を一望する壮大なパノラマ」を見る事は叶うのでしょうか? 眺望を思いきり楽しもうという企画ですから、気になります。

参加者は18名(男性11、女性7)。今回は名古屋の旧友会会員1名も、ビジターとして参加されました。

志賀駅から直通のシャトルバスで、ロープウェイ乗り場へ。

そして121人乗りのロープウェイで打見山(うちみやま 1108m)の山頂へ向かいます。



乗り場には長蛇の列がありましたが、待ち時間は僅か。なるほど、中は写真の様なバス以上の広さでした。800mほどの標高差を僅か5分で一気に登ります。



まず打見山から蓬萊山(1174m)に向かいます。この辺りなだらかな高原が広がります。というか、冬はスキー場として賑わっている場所です。



次第に青空が見られるようになりました。一面の芝の草原、所々鹿のものらしい糞が落ちています。そして、フンコロガシらしき虫の姿も見られました。





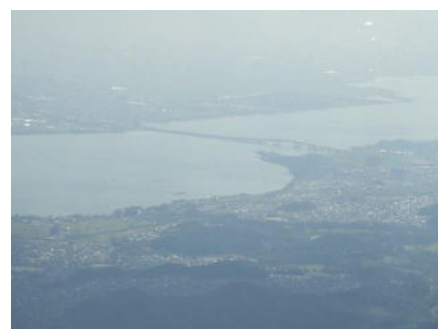
比良山地の山々には、神仏に因んだ名前が多く付けられています。蓬萊山、釈迦岳、権現山……。その事からも知れるように、この辺りは古くは山岳信仰の聖地でした。何しろ、すぐ西側には比叡山がある場所ですから。それが近年スキー場になり、今は夏も賑わうリゾートになっている訳です。様々な遊具が置かれ、遊び心に溢れています。このブランコに乗ると、あたかも琵琶湖に飛び出すかのように感じられるでしょう。

私達も、こんな全員写真を撮りました。(画面後ろは琵琶湖です)



冬ならばスキーヤーが滑り降るゲレンデの急勾配、ジグザグに登ります。立ち止まる時にも、斜面から転げ落ちないように気を付けねばなりません。

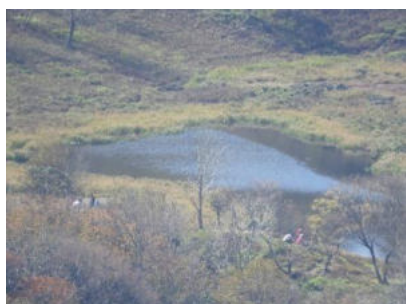
蓬萊山の頂上につきました。
日本300名山の一つ、360度
全周のパノラマが見事です。
気持ちの良い青空です。
琵琶湖大橋がうっすら見えました。
琵琶湖の一番幅の狭い所を結ぶ、
長さはおよそ1400mです。





ここで二組に分かれます。

健脚組10名は、蓬萊山頂～小女郎ヶ池（こじょろうがいけ）を往復します。直線距離は1km程ですが、高低差が110mもあり、急坂です。道はクマザサの斜面の間のガレ場で、雨続きで荒れて各所で崩れていました。その上、麓の蓬萊駅から歩いて登ってきた若者や、同年配の軽トレッキングの人々の往来が多く、道を譲り合いながらで、時間を要しました。



水面に陽光が溢れるこの池には哀しい物語が伝えられています。池の主の大蛇に魅入られた麓の村の女お孝は、行動を咎めた夫に「赤ん坊が乳を欲しがったら、これをしゃぶらせて」と、自分の左目をくり抜いて渡し池の中に姿を消したそうです。その「孝女郎」がいつしか「小女郎」となり、この池は、雨ごいの池として崇められたという事です。帰りは大半が登りですが、「下りよりも楽しかったね」との声が多く聞かれました。

悠々組は「びわ湖テラス」を散策です。

若い方に人気のこんなロマンチックなスポットもありました。皆、年齢の隔たりを実感したものでした。

二つの組が揃って、14時半ロープウェイで下山。

驚いたのは、その時間にもまだ大勢の方が、

ロープウェイで登って来る事でした。

志賀駅で全員無事、解散しました。



* * * * *

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

ひらはっこうの事

この読みで、二通りの言葉が知られています。

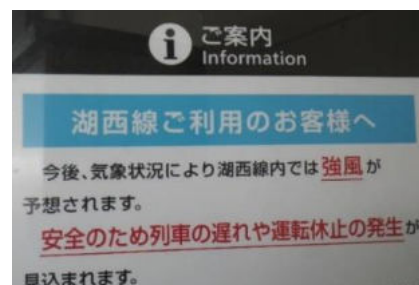
「比良八講」は3月26日に行われる行事です。天台宗の僧侶が、打見山で取水した水を琵琶湖に注ぎ、水難者を供養し、湖上の安全を祈願して護摩を焚くものです。古くは、比良山麓の社寺で、法華経8巻を4日かけて講読した仏事で、その最終日が3月26日だったのです。

この「比良八講」が過ぎると、琵琶湖に春が訪れるとされたものです。

もう一つは「比良八荒」です。これは3月下旬の時季に寒気がぶり返して、比良山から突風が吹き下ろす事です。「八講」と「八荒」が掛けられているのでしょうか。

他にも「比良八講荒れじまい」などという言葉もあるそうです。

ところで、関西地区のテレビでは、しばしば「JR湖西線 強風のため運転見合わせ」という速報が流れます。それほどこの地域では、風が強いのです。JR志賀駅には、写真のようなパネルが置かれていました。実は表側は観光ポスターで、こちらは裏側。強風が吹いて、いざと云う時、この掲示をクルッと出すのでしょうか。



湖西線は琵琶湖の岸に沿って南北に走っていますから、比良山から吹き下ろす強風をもろ受けるのです。それにスピードアップのため、全線高架で風を遮るものがあまりありません。かつて年間28回運休したという記録もあるそうです。もちろん運転見合わせは安全確保の為必要な措置ですし、様々な対策の結果、運休の回数も減っているという事です。

比良山からの風の強さは、新古今和歌集にも歌われています。

「 花さそふ比良の山風吹きにけり 漕ぎ行く舟の跡見ゆるまで 」

～比良山からの山風が、満開の桜を吹き散らします。

湖面に花びらが浮かんで、舟の跡がはっきり見えていますよ～

京の都でこのように詠まれるほどに、比良の山風は知られていたのですね。

打見山経塚の事

こんな言葉があるそうです。「比叡山は3千坊、比良の山は7百坊」
比叡山にお寺が多いのは云うまでもない事でしょうが、比良の山中にも数多くのお寺があったというのです。その歴史を伝えるものの一つに、打見山経塚(きょうづか)があります。旧志賀町史にも、「昭和35年ごろ」と伝えられるのみで経緯ははっきりしませんが、打見山頂上近くの岩陰から発見された出土品が今に伝えられています。高さ40cm程の陶器の入れ物に、青銅の香炉、金銅の花瓶、青白磁の合子(蓋物)などが収められていましたが、肝心のお経は朽ちて残っていなかったそうです。

末法と云われる世に、極楽往生・弥勒の世の到来を願って埋めた経塚。1007(寛弘4)年に藤原道長が吉野山の金峯山寺に埋納したものが、美術的に優れ歴史的経緯もはっきりしていることで、国宝に指定されています。

打見山経塚は、山頂から少し下った所、京の都から見れば山を登りつめた見晴らしの良い所に、埋納して祈りを捧げたものなのでしょう。残念ながら、今回は訪れる事が出来ませんでした。

* * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。

メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

(事前に予約が必要な場合もあります)

今後の予定は

- 11月24日(日) 京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで(京都)
- 12月15日(日) 納会(大阪)
- 1月26日(日) ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く(大阪)
- 2月23日(日) 西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策(大阪)
- 3月22日(日) 華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる(和歌山) *青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。(電話090-1484-4403)

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(写真・文 生島 幸弥)